

出穂後の通水管理で登熟向上を目指そう!!

玄米外形の発達

(出穂後5日)

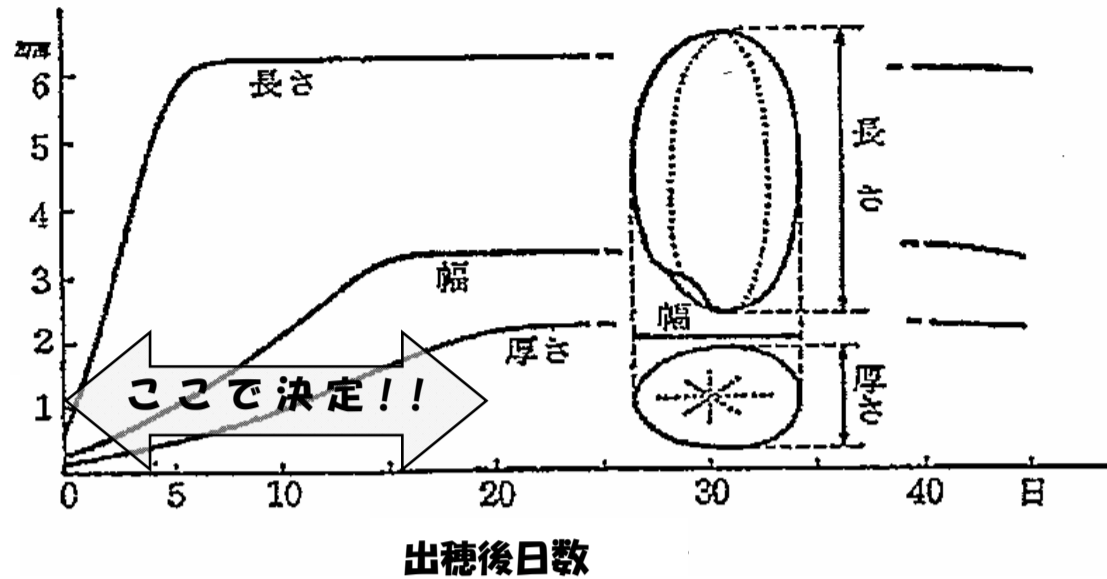
玄米の**長さ**が決定!

(出穂後15日)

玄米の**幅**が決定!

(出穂後20日)

玄米の**厚さ**が決定!



登熟の必須要素

大粒にするには
どうすればよいか?

★日射量 養分やデンプンを生成

★気温 20℃～25℃がベスト! 高すぎると稲自身の消耗が増える

★土壌養分 N(窒素)だけでなく、K(カリ)も登熟向上に必要

★灌水量

上図のように、出穂後20日間は特に要注意!!

出穂期以降の人為的な
管理はムスカシイ...

今からできること
それは...

稲は1日5トン
(10aあたり)
もの水を必要
とします!!

こまめな通水管理で

乳白粒・胴割粒を防止しよう!!

- 収穫5日前まで、間断通水を行いましょう。
- 3日おきの間断通水で田面を乾かさないことが重要です。
- 水はけの悪い圃場では常時湛水は避けて下さい。
- 夜間通水で高夜温による稲体の消耗を抑える。
- 台風・フェーン現象時には、事前に入水して下さい。

落水が早すぎると...



詳しいことは、営農指導員にお尋ねください。

水稻の「いもち病」に注意！！

■葉いもちが発生すると、穂いもちの発生に繋がります

・「葉いもち」、「穂いもち」のどちらに感染しても収量・品質低下に繋がります

■圃場を良く見回り、葉いもちを早期に発見しましょう

(1) 常発地や中山間地、川の近くなど、葉面が湿っている時間が長くなる圃場を重点に見回しましょう

(2) 予防剤を施用していない圃場では特に注意が必要です

(3) 予防剤を施用してあっても、いもち病に弱い品種では注意が必要です

⇒特に注意を要する品種：コシヒカリ、カグラモチ、ひやくまん穀、石川酒68号

■葉いもちを発見したら直ちに防除しましょう

(1) ブラシン粉剤DL 3～4kg/10a

(2) ブラシンフロアブル剤 1000倍希釈 60ℓ～150ℓ/10a



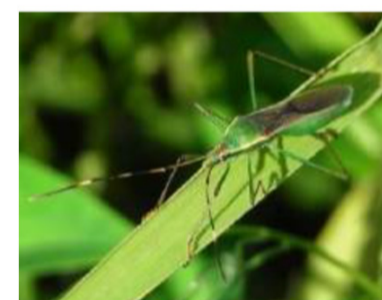
「斑点米カメムシ」に注意！！

■7月20日カメムシ調査（本田内）結果

・調査地点数：107地点（能美根上地区 32地点 小松地区 75地点）

・1地点あたり平均頭数：9.6頭（前年の約1.9倍）

・中山間地や植林地では、比較的大型の飛翔性カメムシであるクモヘリカメムシ（写真）の生息数が増加（去年の1.96倍）し、生息分布も拡大しています。



防除の徹底で品質低下（斑点米）を防止しましょう！

【カメムシ防除に特化した防除時期】

□ 1回目防除：出穂7～10日後

□ 2回目防除：1回目防除の7日後（出穂14～17日後）